

項番	ページ	箇所	誤	正																										
4.106	22	表 7	<p>表7-1 操作電圧の変動範囲</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>電圧の種類</th> <th>直流 V</th> <th>交流 V</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>有負荷時</td> <td>85~110 (標準値100 V時) 170~220 (標準値200 V時)</td> <td>85~110 (標準値100 V時) 170~220 (標準値200 V時)</td> </tr> <tr> <td>無負荷時</td> <td>75~110 (標準値100 V時) 150~220 (標準値200 V時)</td> <td>85~110 (標準値100 V時) 170~220 (標準値200 V時)</td> </tr> </tbody> </table>	電圧の種類	直流 V	交流 V	有負荷時	85~110 (標準値100 V時) 170~220 (標準値200 V時)	85~110 (標準値100 V時) 170~220 (標準値200 V時)	無負荷時	75~110 (標準値100 V時) 150~220 (標準値200 V時)	85~110 (標準値100 V時) 170~220 (標準値200 V時)	<p>表7-1 操作電圧の変動範囲</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">標準値 V</th> <th colspan="2">電圧の種類</th> </tr> <tr> <th>直流 V</th> <th>交流 V</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100</td> <td>85~110</td> <td>85~110</td> </tr> <tr> <td>200</td> <td>170~220</td> <td>170~220</td> </tr> <tr> <td>100</td> <td>75~110</td> <td>85~110</td> </tr> <tr> <td>200</td> <td>150~220</td> <td>170~220</td> </tr> </tbody> </table>	標準値 V	電圧の種類		直流 V	交流 V	100	85~110	85~110	200	170~220	170~220	100	75~110	85~110	200	150~220	170~220
電圧の種類	直流 V	交流 V																												
有負荷時	85~110 (標準値100 V時) 170~220 (標準値200 V時)	85~110 (標準値100 V時) 170~220 (標準値200 V時)																												
無負荷時	75~110 (標準値100 V時) 150~220 (標準値200 V時)	85~110 (標準値100 V時) 170~220 (標準値200 V時)																												
標準値 V	電圧の種類																													
	直流 V	交流 V																												
100	85~110	85~110																												
200	170~220	170~220																												
100	75~110	85~110																												
200	150~220	170~220																												
4.106	22	4 行 目	<p>空気操作、油圧操作、ばね操作方式等で電氣的に操作エネルギーを蓄勢する場合の電圧の標準値は表 6、変動範囲は表 7 による。</p>	<p>空気操作、油圧操作、ばね操作方式等で電氣的に操作エネルギーを蓄勢する場合の電圧の標準値は表 6、変動範囲は表 7 の有負荷時による。</p>																										
6.104 .7	43	17 行 目	<p>三相試験において、遮断器の電源側で相間電圧を求めた時は、その平均値を$\sqrt{3}$で割った値とし、</p>	<p>三相試験において、遮断器の電源側で相間電圧を求めた時は、その平均値を$\sqrt{3}$で除した値とし、</p>																										
6.108 .10	74	11 行 目	<p>試験責務 1 は、6.104.13の規定による。ただし、制御電圧は定格で行う。遮断性能に影響を与えないことが明らかな場合は、試験の効率を考慮し制御電圧は最高電圧で実施してもよい。</p>	<p>試験責務 1 は、6.104.13と同じとする。</p>																										
9.103 .11	84	12 行 目	<p>検証するアーク時間 t_a は、以下の式で規定されるものとする。</p>	<p>検証するアーク時間 t_a は、以下の式で規定されるものとする。</p>																										

項番	ページ	箇所	誤	正																																						
付属書 L.4	139	表L.2	<table border="1"> <tr> <td></td> <td>直接接地、 低抵抗接地。</td> <td>高抵抗接地。</td> <td>非接地。</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">架空線路、 ケーブル、 各相シース、 共通シース、 コンデンサバンク。</td> <td>1.4 $U_i/\sqrt{3}$。</td> <td>1.7 $U_i/\sqrt{3}$。</td> <td>1.7 $U_i/\sqrt{3}$。</td> </tr> <tr> <td>1.4 $U_i/\sqrt{3}$。</td> <td>—。</td> <td>—。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>1.4 $U_i/\sqrt{3}$。</td> <td>1.7 $U_i/\sqrt{3}$。</td> <td>1.7 $U_i/\sqrt{3}$。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>—。</td> <td>1.7 $U_i/\sqrt{3}$。</td> <td>1.7 $U_i/\sqrt{3}$。</td> </tr> </table>		直接接地、 低抵抗接地。	高抵抗接地。	非接地。	架空線路、 ケーブル、 各相シース、 共通シース、 コンデンサバンク。	1.4 $U_i/\sqrt{3}$ 。	1.7 $U_i/\sqrt{3}$ 。	1.7 $U_i/\sqrt{3}$ 。	1.4 $U_i/\sqrt{3}$ 。	—。	—。		1.4 $U_i/\sqrt{3}$ 。	1.7 $U_i/\sqrt{3}$ 。	1.7 $U_i/\sqrt{3}$ 。		—。	1.7 $U_i/\sqrt{3}$ 。	1.7 $U_i/\sqrt{3}$ 。	<table border="1"> <tr> <td></td> <td>直接接地、 低抵抗接地。</td> <td>高抵抗接地。</td> <td>非接地。</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">架空線路、 ケーブル、 各相シース、 共通シース、 コンデンサバンク。</td> <td>1.4 $U_i/\sqrt{3}$。</td> <td>1.7 $U_i/\sqrt{3}$。</td> <td>1.7 $U_i/\sqrt{3}$。</td> </tr> <tr> <td>1.4 $U_i/\sqrt{3}$。</td> <td>—。</td> <td>—。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>1.4 $U_i/\sqrt{3}$。</td> <td>1.7 $U_i/\sqrt{3}$。</td> <td>1.7 $U_i/\sqrt{3}$。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>—。</td> <td>—。</td> <td>1.7 $U_i/\sqrt{3}$。</td> </tr> </table>		直接接地、 低抵抗接地。	高抵抗接地。	非接地。	架空線路、 ケーブル、 各相シース、 共通シース、 コンデンサバンク。	1.4 $U_i/\sqrt{3}$ 。	1.7 $U_i/\sqrt{3}$ 。	1.7 $U_i/\sqrt{3}$ 。	1.4 $U_i/\sqrt{3}$ 。	—。	—。		1.4 $U_i/\sqrt{3}$ 。	1.7 $U_i/\sqrt{3}$ 。	1.7 $U_i/\sqrt{3}$ 。		—。	—。	1.7 $U_i/\sqrt{3}$ 。
	直接接地、 低抵抗接地。	高抵抗接地。	非接地。																																							
架空線路、 ケーブル、 各相シース、 共通シース、 コンデンサバンク。	1.4 $U_i/\sqrt{3}$ 。	1.7 $U_i/\sqrt{3}$ 。	1.7 $U_i/\sqrt{3}$ 。																																							
	1.4 $U_i/\sqrt{3}$ 。	—。	—。																																							
	1.4 $U_i/\sqrt{3}$ 。	1.7 $U_i/\sqrt{3}$ 。	1.7 $U_i/\sqrt{3}$ 。																																							
	—。	1.7 $U_i/\sqrt{3}$ 。	1.7 $U_i/\sqrt{3}$ 。																																							
	直接接地、 低抵抗接地。	高抵抗接地。	非接地。																																							
架空線路、 ケーブル、 各相シース、 共通シース、 コンデンサバンク。	1.4 $U_i/\sqrt{3}$ 。	1.7 $U_i/\sqrt{3}$ 。	1.7 $U_i/\sqrt{3}$ 。																																							
	1.4 $U_i/\sqrt{3}$ 。	—。	—。																																							
	1.4 $U_i/\sqrt{3}$ 。	1.7 $U_i/\sqrt{3}$ 。	1.7 $U_i/\sqrt{3}$ 。																																							
	—。	—。	1.7 $U_i/\sqrt{3}$ 。																																							
付属書 M.2	143	図 M.1	基準遮断時間	基準開極時間																																						
解説 4	184	7.2.2 6行目	評価することとした	評価することとした。																																						
解説表 7	209	No. 126 左	JEC-2300-2010 記載の (d) の“この場合、供試ユニットの消弧媒体量が全消弧室ユニットの全消弧媒体量に対し適切で、”を廃止。	JEC-2300-2010 記載の (d) を廃止。																																						
解説表 7	209	No. 126 右	適用できる条件として(a)~(c)に加えて、以下の規定有り。 (d)定格短絡電流の 60 %以下の試験電流の投入および遮断試験 全消弧室ユニットでの操作時と供試ユニットの操作時の動作特性曲線が附属書 2 の 3.1 の条件を満たすこと。	適用できる条件として(a)~(c)に加えて、以下の規定有り。 (d)定格短絡電流の 60 %以下の試験電流の投入および遮断試験 この場合、供試ユニットの消弧媒体量が全消弧室ユニットの全消弧媒体量に対し適切で、全消弧室ユニットでの操作時と供試ユニットの操作時の動作特性曲線が附属書 2 の 3.1 の条件を満たすこと。																																						
解説表 7	209	No. 126 解説	あいまいな表現による規定を削除した。	あいまいな表現による規定であること、および(a)から(c)の規定でほぼカバーされ、(d)を適用する事例が殆どないことから、(d)を削除した。																																						
解説 6 a)	215	5行目	開閉位相制御	開閉極位相制御																																						

項番	ページ	箇所	誤	正
解説 6 b)	215	20 行 目	常軌使用状態	常規使用状態